

教育支援センターだより

第9号 発行日 平成24年3月1日

教育支援センターは、子どもたちの学校生活や家庭生活がより豊かになるために、さまざまな支援を行っています。

教育支援センター

教育相談

市内在住・在学の幼児から青少年までの子育てに関すること、こころや身体の発達のこと、学校生活に関することなどの相談に応じます。

臨床心理士によるカウンセリングや遊戯療法、必要に応じて発達検査や専門医のアドバイスを受けることができます。

スクールソーシャルワーカーが関係機関を結ぶ役割をしています。

- * 発達検査の結果については、家庭や学校でできる手だてに結びつくよう、ていねいなご説明を心がけています。
- * 市内の小・中学校を訪問し、集団での関わり合いに難しさを感じている子どもや保護者の方の相談を受けています。

適応指導教室「チャレンジルーム」

不登校になっている児童・生徒のための教室です。

学校復帰に向けて、学習や集団活動など、児童・生徒の指導・支援を行っています。

来室できないお子さんに対しては「訪問支援」も行っています。

- * 2学期は教科学習以外に、藍染め体験、絵手紙教室、秋の遠足、保護者会、進路相談などを行いました。今は受験や進級に向けて頑張っています。

帰国・外国人教育相談室

帰国・外国人、国際結婚家庭の小・中学生を対象に、日本語指導・通訳・翻訳・教育相談などを行っています。気軽にご相談下さい。水曜日の放課後は学習補充教室「すてっぷルーム」も実施しています。

- * 現在6名のお子さんが日本語指導を受けています。
- * 11月には帰国生保護者会を実施し、帰国生保護者会を実施し、進路のこと、外国語保持のことなどが話題になりました。

★12月2日に開催いたしました講演会の内容を抜粋して掲載いたします★
子育て中の保護者のみなさまに、お子さんの成長や発達を見守る上で参考としていただければ幸いです。

「発達に偏りのある子どもの理解と 関わり方について」

黒沢幸子 先生(目白大学 教授)

心配事があり、専門書などを読んで“何か偏りのある子ども”と思い込むと、そういう目で子どもを見すぎてしまうことがあります。当たり前で反抗したり、ぐずったりしていることを特別な目で見てしまうことで子どもが出しているサインやコミュニケーションを誤って見てしまうことがあるので、一般的に子どもたちがどんな心の発達の過程を辿るのかを理解しておくことが大切です。

◆◇◆子どもの心理面の発達と親の役割 ◆◇◆



1. 乳児期

主な感覚：「快いか、そうでないか」

親の役割：子どもにとって快いと感じられるよう、安全と生命を保障・保持する

*発達に偏りのある子どもは脳のメカニズムにちょっと個性的なところがあるため、標準的な反応ができないことや、言葉や表現がうまくキャッチできないことがあります。そうすると、普通以上の努力した対応が必要になり、お互いにうまく伝わらず親子の間がぎくしゃくしてしまうことがあります。

2. 幼児期

主な感覚：

- ・ 「自分」という意識が芽生える → 最初の反抗期を迎える
- ・ 「思い通りにいかない他者」と → 思い通りにいかない他者との関わりを通して自分に対する新たな
意識が芽生える 視点が芽生える

親の役割：

- ・ 社会に出るための基礎的なルールを教える
トイレトレーニング、食事のマナー、挨拶のマナーなど、できることで優越感を抱き、できないことで恥ずかしいという意識を育てます。そのためには、褒めることと叱ることのバランスが大切です。
- ・ 感情を育てる
「くやしかったんだね、涙が出ちゃったんだね、怖かったんだね」と感情に言葉をあて、いやな感情を出し、受け止められるように支えることが大切です。
- ・ 自信を育てる
自分の思い通りにいかない他者がいるということがわかり、うまくいかない場面が出てくるようになります。小さなことであってもできたことを褒め、励ますことで成功体験を増やしていくことが自信を育てることにつながります。

3. 学童期

主な感覚：人とは違う「自分」を意識する

友だちとの遊びや活動を通して、“他人だけど同じ”、“似ているけど違う”という自分との境界意識が芽生えていきます。

親の役割：子ども集団での関わりや友だちとのもめごと、親とのぶつかりあいなどを通して「自分の輪郭を作る」作業をしている子どもを理解し支える

◆◆◆発達に偏りのある(発達障害)子どもの理解と対応 ◆◆◆

親の側で困ったと思うような子どもは、子どもの側でも不自由を感じたり、うまくいかない感じを抱えたり、困っていたりすることがあります。そういう場合は、子どもの持っている特性や資質を活かし、良いものを伸ばすことが大切です。何かが苦手だということは、何かが得意だということでもあり、偏りがあるということは天才的な部分があることにつながる場合もあるのです。

い

このうち知的な遅れがな

《発達の障害（発達の遅れ）》

- ・ 知的障害（精神遅滞） * I Qが70以下
- ・ 特異的発達障害（部分的な遅れ） * ある部分だけ特徴的に遅れがある
 - ……学習障害（LD） 運動能力障害など
- ・ 広汎性発達障害（自閉性スペクトラム） * 対人関係が不得手
 - ……自閉性障害（アスペルガー障害など）
- ・ 注意欠陥多動性障害（ADHD） * 行動性の特性

* 通常学級にいる軽度発達障害児の割合……6.3%（2002年文科省調査）

1) LD：学習障害

- ・ 全般的な知能の遅れはない
- ・ 「読む、聞く、話す、書く、計算する、推論する」のうち特定のものに著しい困難がある
- ・ 中枢神経に何らかの機能障害があると考えられている

【LDへの対応】

- ・ できないことを叱らない
- ・ 特徴に適した学習支援を行う（個別の学習プログラム、言語的療法など）



2) 広汎性発達障害(自閉性スペクトラム障害) * 自閉的特徴をもつ

① 対人的相互関係における質的な障害

- ・ 目を合わせるのが苦手
- ・ 顔の表情や身体の動き、身振りなどから相手の考えていることを判断することが難しく、言葉通りに行動する傾向がある
- ・ 発達の水準に相応した仲間関係をつくるのが苦手(楽しみ、興味、達成感を他人と分かち合おうとしない)

② 行動、興味、活動に限定的、反復的、常同的(いつも同じ)こだわりがある

- ・ 儀式的行動パターンがある
- ・ 変化や新しいものに対応が苦手

③ 固定的、絶対的なデジタル思考がある

* 近年、このような傾向は一般的にも高まりつつある

<アスペルガー障害>

- ・ 自閉的な特徴をもつ一方で、知的な遅れが見られない。
- ・ 認知の発達、自己管理能力、対人関係以外の適応能力に明らかな遅れが見られない

【自閉性傾向のある子どもへの対応】

- ・ 個別対応の時間をたっぷりとする
- ・ 視覚的サインを用いる
- ・ こだわりは無理に止めさせずに少しずつ変えていく
- ・ 何があるのかをはっきりさせ、時間の流れ(スケジュール)を示す
- ・ 変化があるときはリハーサルを行う
- ・ “苦手だからしょうがない”ではなく、人と居て楽しいと感じる機会を増やす
- ・ 周囲の人をできるだけ観察し、さまざまな側面から察知できるよう促す



3) ADHD：注意欠陥多動性障害

《不注意》

- ・ 集中できない
- ・ 聞き間違いが多い
- ・ 物をなくしやすい
- ・ すぐ忘れる
- ・ など

《多動性、衝動性》

- ・ 注意がすぐ移り変わる
- ・ 気が散る

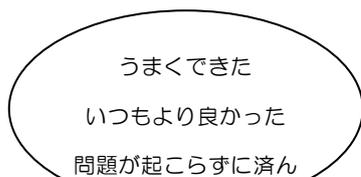
* 中枢神経に何らかの先天的な機能障害があると考えられている

【ADHDへの対応】

- ・ 行動性が強すぎる時には、薬物療法が有効な場合もある。
- ・ 自尊感情、自己効力感情を高めるような関わりをする。

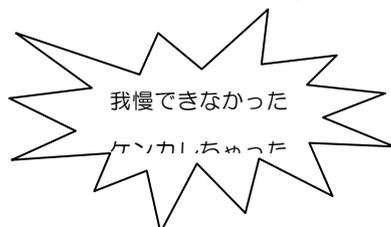
持っている行動特性ゆえに注意されたり叱られたりすることが多く、その結果本人の自信が低下したりイライラしたりしがちです。

《+(プラス)の行動》



褒めるとともに、「それはどうやったんだろう? どうしてできたんだろう?」というふうにうまくできた原因・理由を一緒に考える(成功の責任追及)と次につながっていきます。

《-(マイナス)の行動》



「今日は残念だったね。またソワソワ虫、ウジャウジャ虫が出ちゃったね」というふうに本人を責めすぎず、問題を比喩的に表現して扱う(問題の外在化)という方法もあります。

* 無断での複製、引用、ネットへの掲載などは固くお断りします。問い合わせなどありましたら、下記までお願いいたします。

発行 武蔵野市教育委員会 教育部教育支援課 教育支援センター
所在地 〒180-0001 武蔵野市吉祥寺北町4-11-37
電話番号 0422-60-1899 FAX 0422-60-1922